

令和6年度厚木市公共下水道事業決算の概要

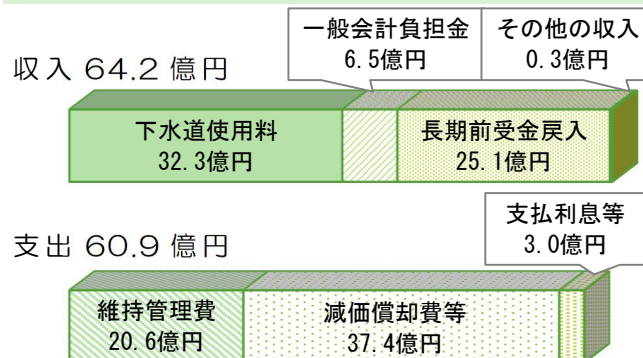
7地区の雨水管整備工事や、中心市街地における合流管の改築工事を実施しました。そのほか、継続事業として、2地区の雨水管整備、三田地区（市街化調整区域）の污水管整備、ポンプ場の自家発電設備の改築を進めています。

1 業績ハイライト（前年度比較増減）

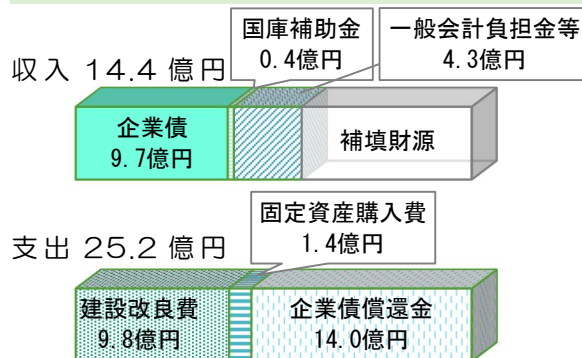
有収水量	2,595 万 ³ m	(+19 万 ³ m)	処理区域内人口一人当たり 354.8 ℓ/日
維持管理費	18.9 億円	(+2.7 億円)	管渠費増、流域下水道負担金増など（税抜）
投資額	11.2 億円	(-7.5 億円)	管渠建設費減（税込）
収益	61.3 億円	(+0.1 億円)	雨水処理負担金増、長期前受金戻入減など
費用	58.8 億円	(+1.2 億円)	維持管理費増、減価償却費減など
当年度純利益	2.5 億円	(-1.1 億円)	企業会計移行後、5年連続で純利益計上

2 収支の状況

収益的収入及び支出（税込）

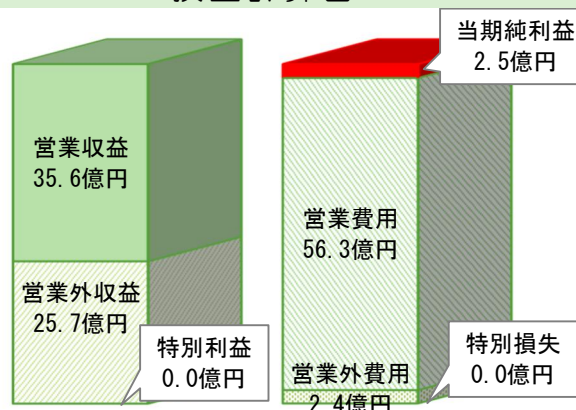


資本的収入及び支出（税込）

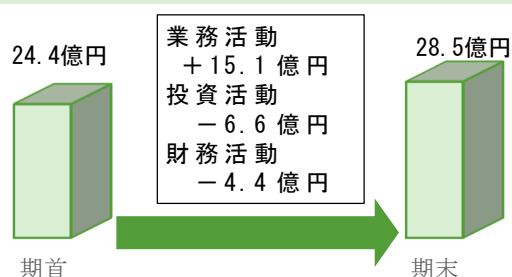


3 財務諸表

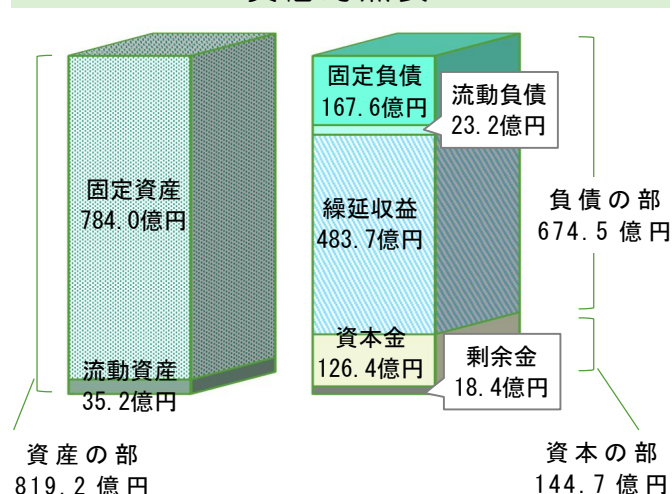
損益計算書



キャッシュ・フロー計算書



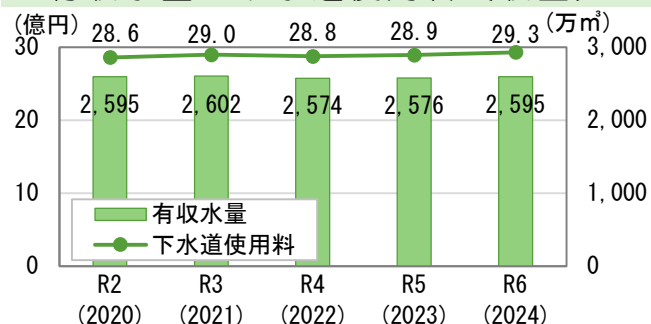
貸借対照表



注）各数値を四捨五入しているため、合計額等と一致しない場合があります。

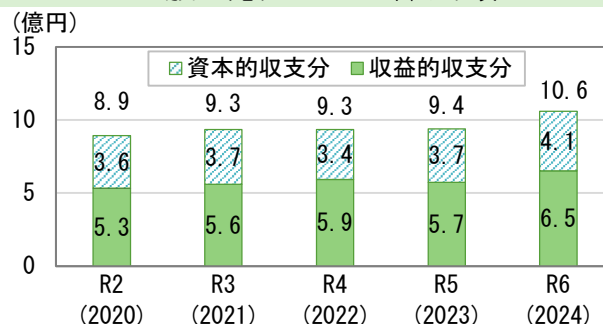
4 経営指標等の推移

有収水量と下水道使用料（収益）



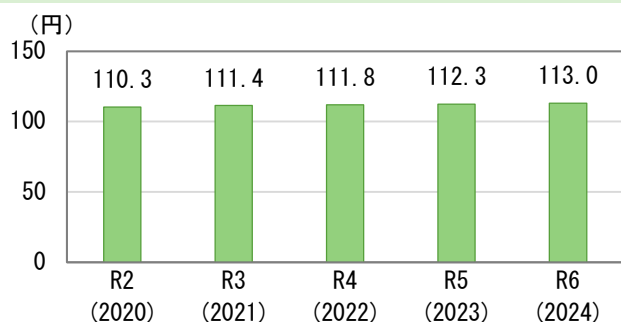
有収水量・下水道使用料ともに、大きな変動はありません。

一般会計からの繰入額



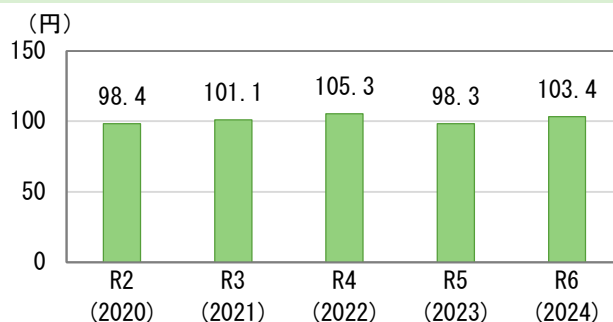
総務省が定めた基準に基づいて一般会計から繰り入れたもので、雨水施設の修繕費や企業債償還金の増加により 1.2 億円増加しました。

使用料単価（有収水量 1 m³あたり）



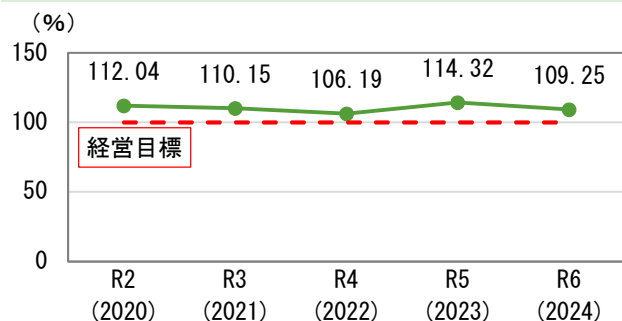
厚木市では、排水量が多いほど単価が高くなる累進性を採用しているため、大規模事業所からの排水量の増加に伴い、0.7 円上昇しました。

汚水処理原価（有収水量 1 m³あたり）



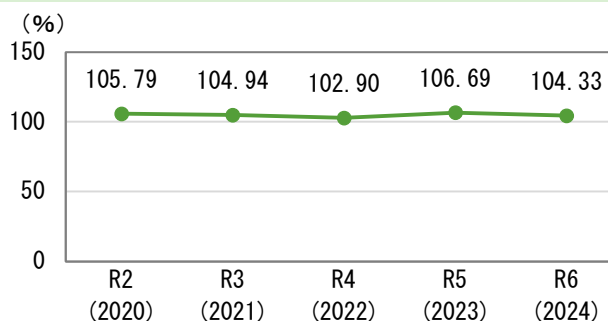
物価高騰等による流域下水道負担金の増額や、老朽化した管渠の修繕が増えたことにより、汚水処理費が増加したため、5.1 円上昇しました。

経費回収率



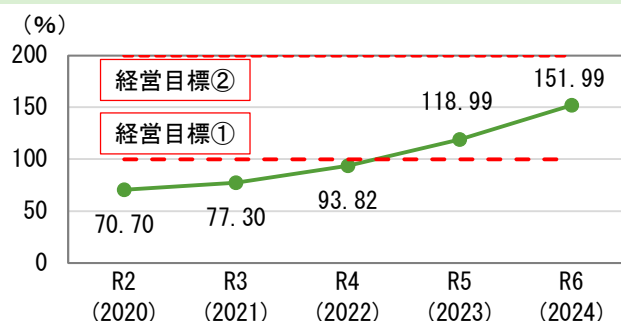
費用の増加により前年度から 5.07 ポイント低下しましたが、企業会計移行後 5 年連続で経営目標の 100% 以上を達成しました。健全な経営状況が保たれています。

経常収支比率



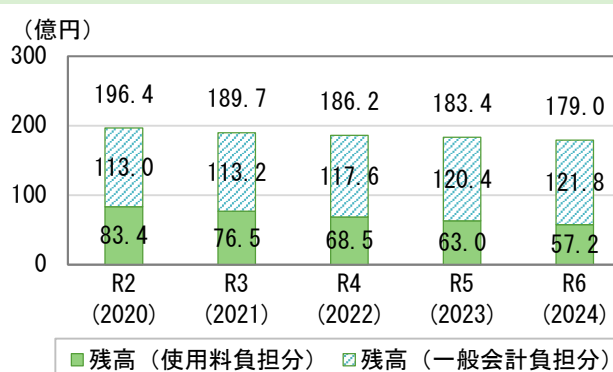
前年度から 2.36 ポイント低下しました。前年度に引き続き、単年度収支が黒字であることを示す 100% を上回っています。

流動比率



企業債の償還が進み、元利償還金の支払額が減少したため、前年度から 33 ポイント上昇しました。流動負債 23.2 億円のうち、翌年度に償還する企業債は 11.4 億円です。

企業債残高



汚水管を整備していた時期の企業債の償還が進み、企業債残高は 4.4 億円減少しました。